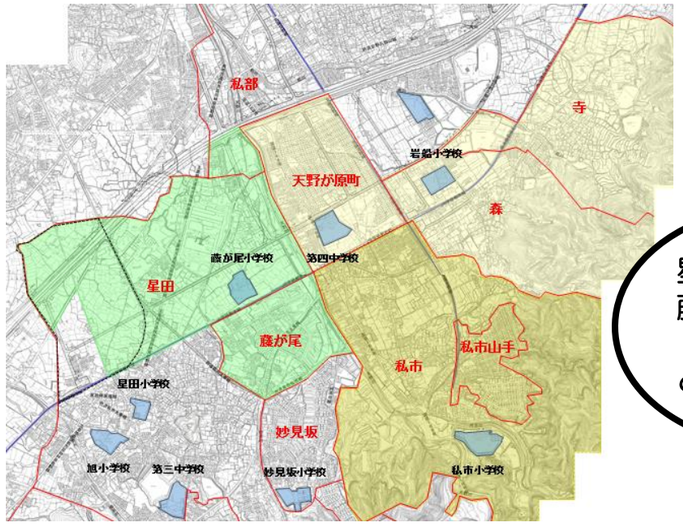
参考資料２０

第四中学校区の適正配置案

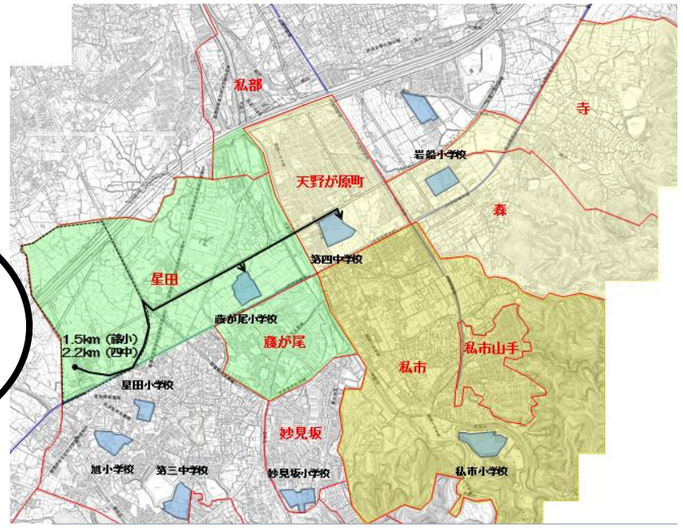
第四中学校区の適正配置案

校区図（令和2年現在）



星田北7丁目は、藤が尾小学校区（第四中学校区）とした場合

校区図（校区変更後）



～第四中学校区の課題～

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

~~将来的に小規模化する見込みである~~

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の課題は解消する見込み

※私市小学校は、推計上R27年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、児童数は250人を下回る見込みであるため、その後は、小規模化する可能性は考えられる。

※学校施設については、岩船小学校で築後48年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

学校適正配置案

案名称	大規模開発が見込まれている星田駅北の小学校区	現状の課題（星田駅北の影響により、解消される見込みの課題は、取り消し線により記載）	学校の適正配置までの動き	統合後の学校の位置	メリット	デメリット
学校統合案(8)	星田北6,7,8,9丁目 ⇒藤が尾小学校区 ※星田北8,9丁目には住宅建設予定なし	① 将来的な 岩船小学校 の小規模化 ~~②~~ ~~将来的な~~ ~~藤が尾小学校~~ ~~の小規模化~~	**岩船小学校・私市小学校を統合**	**岩船小学校敷地**	・課題①が解消される。	・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。 ・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
学校統合案(9)				**私市小学校敷地**	・課題①が解消される。 ・私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）
学校統合案(10)			**岩船小学校・藤が尾小学校を統合**	**岩船小学校敷地**	・課題①が解消される。	・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。 ・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校で一時的に適正規模を上回る見込みである。
学校統合案(11)				**藤が尾小学校敷地**	・課題①が解消される。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校が一時的に適正規模を上回る見込みである。
学校統合案(12)			**岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校を統合**	**岩船小学校敷地**	・課題①が解消される。	・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。 ・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
学校統合案(13)				**藤が尾小学校敷地**	・課題①が解消される。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
~~学校統合案(14)~~				**私市小学校敷地**	・課題①が解消される。 ・私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約4.1km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
小中学校統合案(3)			**岩船小学校・私市小学校・第四中学校を統合**	**第四中学校敷地**	・課題①が解消される。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）
小中学校統合案(4)			**岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校・第四中学校を統合**	**第四中学校敷地**	・課題①が解消される。 ・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
校区変更案			**星田小学校区（第三中学校区）の星田北7丁目を校区変更し、藤が尾小学校区とし、藤が尾小学校区にて小中一貫教育実践校を設置（藤が尾小学校が第五中学校区となる。）**	**—**	・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。	・第四中学校が小規模化する見込みである。 ・課題①が残る。 （・星田駅北の開発による児童数の増加を注視しながら進める必要がある。）

【 学校適正配置案について 】

学校規模適正化基本計画（105ページ）から抜粋したもの。

【 斜線のある配置案について 】

一番左の列の「案名称」に斜線のある配置案は、赤字で記載のデメリットを含んでいる。

【 赤字で記載のデメリットについて 】

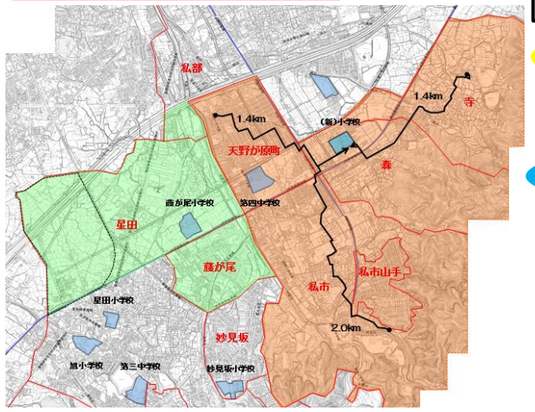
学校規模適正化基本計画において、教育環境上望ましくないと考えられるデメリットで、第四中学校区の学校適正配置案では、以下の①がある。

①通学距離が学校規模適正化基本方針で定めた許容範囲を超えるような場合

学校統合案(8)(9)(10)(11)

学校統合案(8)

【概要】岩船小学校と私市小学校を統合し、岩船小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

【メモ】

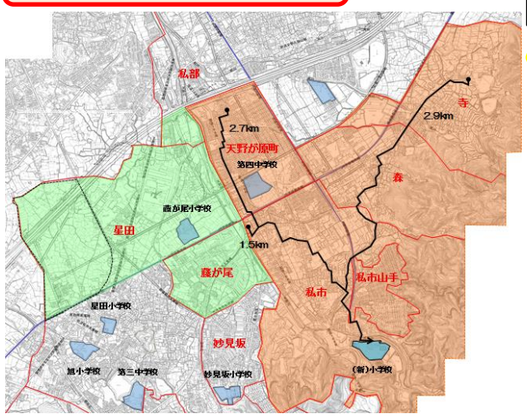
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
藤が尾小学校（全体）	349	291	509	726	685	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	349	291	280	241	214	193	181
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－
（新）小学校	747	720	670	592	532	485	450

※（新）小学校：岩船小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案(9)

【概要】岩船小学校と私市小学校を統合し、私市小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）

【メモ】

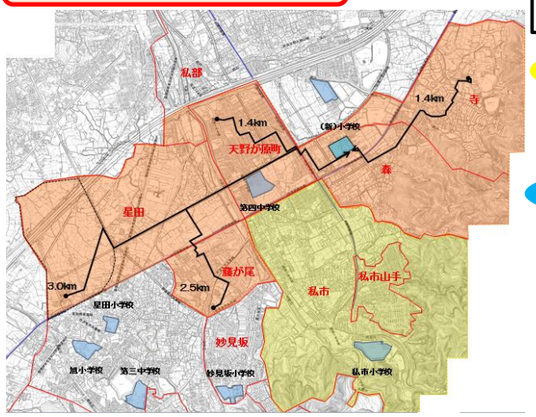
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
藤が尾小学校（全体）	349	291	509	726	685	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	349	291	280	241	214	193	181
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－
（新）小学校	747	720	670	592	532	485	450

※（新）小学校：岩船小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案(10)

【概要】岩船小学校と藤が尾小学校を統合し、岩船小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で一時的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

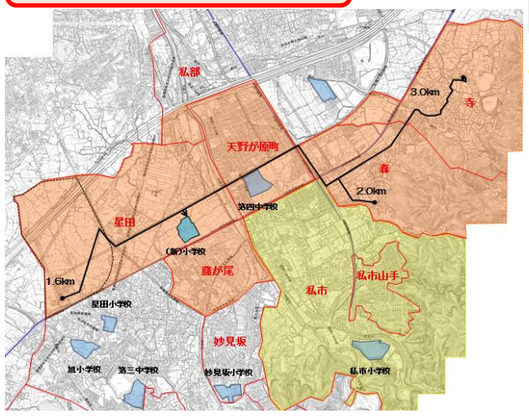
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
私市小学校	381	384	374	321	293	266	249
（新）小学校（全体）	715	627	805	997	924	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	715	627	576	512	453	412	382
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区の児童が就学

学校統合案(11)

【概要】岩船小学校と藤が尾小学校を統合し、藤が尾小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で一時的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

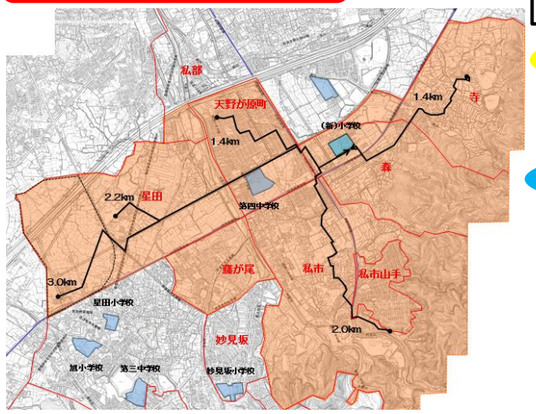
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
私市小学校	381	384	374	321	293	266	249
（新）小学校（全体）	715	627	805	997	924	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	715	627	576	512	453	412	382
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区の児童が就学

学校統合案(12)(13)(14)

学校統合案（12）



【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校を統合し、岩船小学校敷地に新しい学校を設置

メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

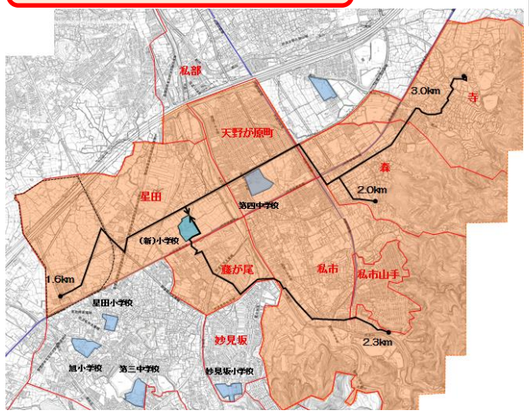
【メモ】

児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1179	1318	1217	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	950	833	746	678	631
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案（13）



【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校を統合し、藤が尾小学校敷地に新しい学校を設置

メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

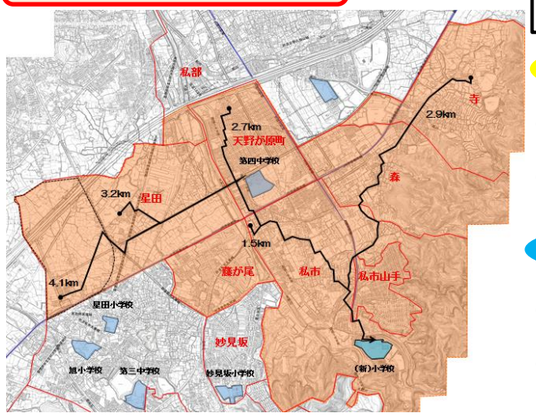
【メモ】

児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1179	1318	1217	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	950	833	746	678	631
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案（14）



【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校を統合し、私市小学校敷地に新しい学校を設置

メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約4.1km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

児童生徒数（人）

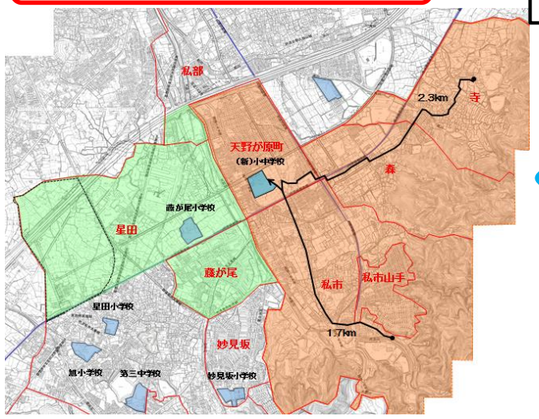
	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1179	1318	1217	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	950	833	746	678	631
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

小中学校統合案(3)(4)・校区変更案

小中学校統合案(3)

【概要】岩船小学校・私市小学校・第四中学校を統合し、第四中学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）

【メモ】

児童生徒数（人）

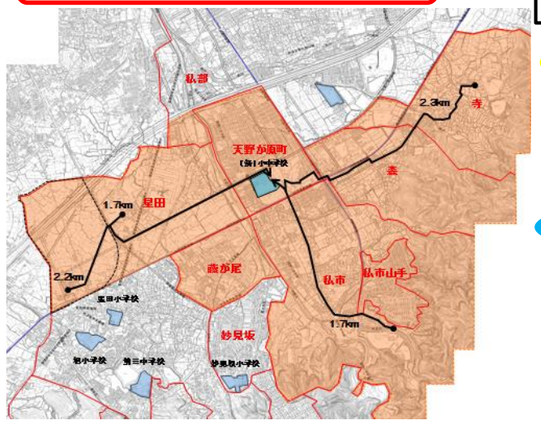
	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
（新）中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
藤が尾小学校（全体）	349	291	509	726	685	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	349	291	280	241	214	193	181
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－
（新）小学校	747	720	670	592	532	485	450

※（新）中学校：第四中校区の生徒が就学

※（新）小学校：岩船小校区・私市小校区の児童が就学

小中学校統合案(4)

【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校・第四中学校を統合し、第四中学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

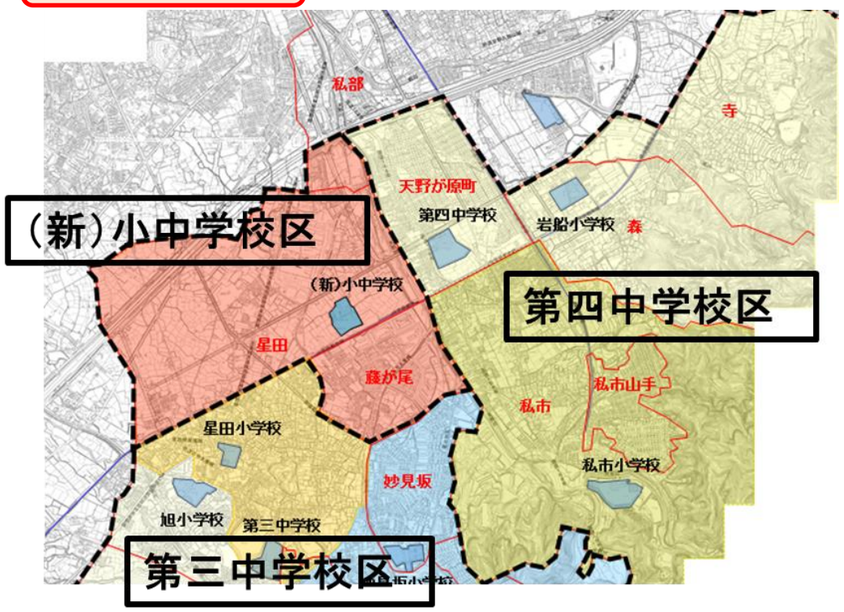
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
（新）中学校（全体）	567	510	520	541	627	557	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	420	363	330	310
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1179	1318	1217	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	950	833	746	678	631
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）中学校：第四中校区の生徒が就学

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

校区変更案

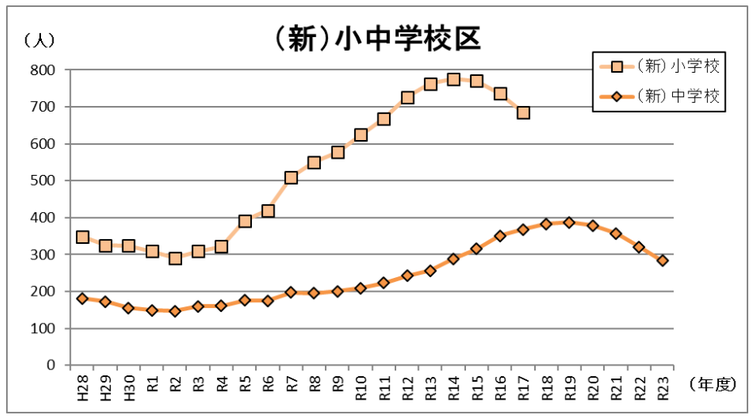
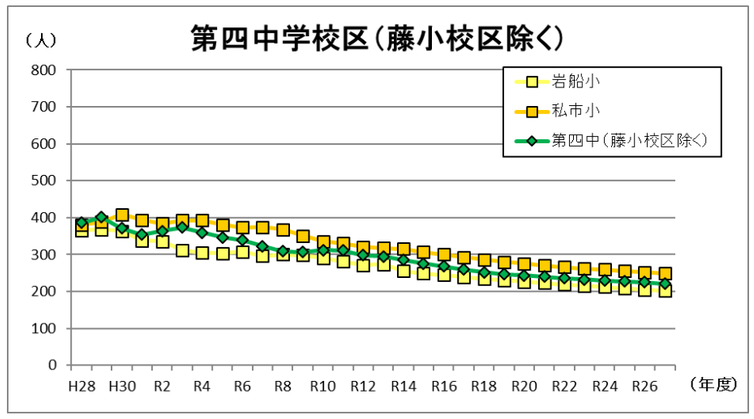


【概要】藤が尾小学校区を一つの中学校区とし、藤が尾小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。第四中学校区は、岩船小学校・私市小学校・第四中学校の２小１中となる。

メリット

- （新）小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。

デメリット

- 将来的に第四中学校が小規模化する見込みである。
- 将来的な岩船小学校の小規模化の課題が残る。
- 星田駅北の開発による児童数の増加を注視しながら進める必要がある。
（令和２年推計では（新）小中学校区の中学校で、適正な学校規模を確保することが難しい見込みである。）

【メモ】